

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 24 期第 5 回)

日時：2018 年 1 月 23 日 (水) 11:00~12:00

場所：学術会議 5-C(1)(2)会議室

出席者：林、渡部、山崎、生田、相川、浅井、奥村、梶田、芝井、須藤、杉山、田近、常田、
永原、観山、新永 (skype)、千葉 (skype)、村山 (skype)、山田、深川 (skype)

欠席：岡村、海部、佐々木、藤井

オブザーバー：山岡均 (国立天文台)

(順不同、敬称略)

1. IAU symp. No.358 の共催について(資料 1)

“Astronomy for Equity, Diversity, and Inclusion”について、後援申請があり、これについて審議し、分科会として後援して進めることを承認した。

C (渡部)：申請書の「平成」の表記について、西暦で書く。

2. 提言「ハッブルの法則の改名を推奨する IAU 決議への対応」の発出について

渡部委員長より、物理学委員会での審査を経て、物理学委員会の IAU および天文学・宇宙物理学分科会から学術会議「提言」を発出した旨、報告があった。

C(渡部)：地学の教科書の改訂時期にあたっている。「地学 I」教科書に載っていることもあり速やかに提言を出すことが重要だった。

Q：ハッブルとルメートルをつなぐのはハイフンでなく中点良かったのではないか。

A(岡村)(後日回答)：中点は外国人名の姓と名の区切りであると誤解される可能性があるため、ハイフンを用いるのが正しい。

3. ジュニア・メンバー

渡部委員長より、今回は 2 名の申請があった旨、報告があった。どちらも国籍は日本ではないが、日本の機関に現在所属している。IAU 本部の 12 月末締め切りに合わせて申請フォームへの登録を行った。本分科会で承認が得られれば、1 月中に渡部委員長が確認作業をする。

C(山岡)：前回、PhD prize のために後からジュニアメンバーを追加した。今回も同様のことがあれば、委員長と相談の上、進めることとしたい。

Q(芝井)：国籍が日本ではないが、分担金の負担との関係はどうなっているのか。

A(渡部)：ジュニアメンバーが何人増えても分担金の金額は変わらない。

Q(芝井)：なぜ日本から推薦するのか。国籍を持つ国の人から反対があればどうなるのか。

A(渡部)：現在、日本にいるため日本へ応募があったのだと思われる。推薦する国が日本でも、承認そのものはIAUのコミッティが行う。その国の国籍でない人が推薦されることはある。ジュニアメンバーから普通のメンバーになるときに、変更が可能である。

4. IAU 100周年記念行事への取り組み

オブザーバーの山岡氏から以下の報告があった。

・「IAU資料4-1」にもとづき日本での取り組みについて説明があった。また、IAU100周年の国際関連行事として、学生のエッセイコンテストが実施されることとなり、日本天文学会メーリングリストで周知した。

・全体のセレモニーは、ブリュッセルで4月11-12日に開催される。IAU総会で使われたパネルの一部を用いて展示を行う予定である。

・NameExoWorld2(系外惑星の命名コンテスト)や小惑星ネーミングイベントが予定されている。

渡部委員長から以下の報告があった。

・IAU100に対して、国立天文台(日本)はグローバルスポンサーになった。創立7カ国の一つとして恥ずかしくないサポートをする。

・公開シンポジウム「天文学の100年」(5月27-28日)について状況説明があった。内容や講演者についてIAU資料4-2に沿って紹介された。天文学・宇宙物理学分科会とIAU分科会両方の主催となる。

委員からはプログラムにおいて分科会の名称など講演者の肩書きの書き方に注意した方が良いというコメントがあった。その他、気がついた点等あれば、渡部委員長へ伝えることになった。また、観山委員の司会の部分は、会長・幹事で対応することとなった。

5. 後援申請について

オブザーバーの山岡氏より、例年どおり、ジュニアセッションと七夕講演会について、12月末に後援申請を出した旨、報告があった。

以上。